

# 28日 火曜

## 詩篇

### 24 ダビデの賛歌

24:1 地とそれに満ちているもの、世界とその中に住むものは主のものである。

24:2 まことに主は、海に地の基を据え、また、もろもろの川の上に、それを築き上げられた。

24:3 だれが、主の山に登りえようか。だれが、その聖なる所に立ちえようか。

24:4 手がきよく、心がきよらかな者、そのたましいをむなしいことに向けず、欺き誓わなかつた人。

24:5 その人は主から祝福を受け、その救いの神から義を受ける。

24:6 これこそ、神を求める者の一族、あなたの御顔を慕い求める人々、ヤコブである。セラ

24:7 門よ。おまえたちのかしらを上げよ。永遠の戸よ。上がり。栄光の王がはいって来られる。

24:8 栄光の王とは、だれか。強く、力ある主。戦いに力ある主。

24:9 門よ。おまえたちのかしらを上げよ。永遠の戸よ。上がり。栄光の王がはいって来られる。

24:10 その栄光の王とはだれか。万軍の主。これぞ、栄光の王。セラ

主の臨在のしるしである契約の箱を迎えるときの歌と思われます。聖なる主を迎える前に、「だれが、その聖なる所に立ちえようか。」と問われ、私たちの心と行いが問われます。すなわち「手がきよく、心がきよらかな者、そのたましいをむなしいことに向けず、欺き誓わなかつた人。」であること



Bible Reference  
聖書の記述

が宣言され、聞く者は自分を省みるでしょう。

このように礼拝は主の臨在を迎えるものです。また祈りの場も同じであり。ディボーションもまた然ります。

神様のことがあまり感じられないという人もいるかもしれません、もしかしたらこのように主を迎えるという姿勢が不十分で、漠然と祈りまた礼拝に顔を出しているのかもしれません。

主を感じられるかどうかは、自分自身の主への姿勢によるのです。主の臨在をお迎えしましょう。「栄光の王」「万軍の主」をお迎えするにふさわしいあり方はどうすることか、最善を尽くして礼拝し祈りましょう。「その人は主から祝福を受け、その救いの神から義を受ける。」という約束です。

ただし、自分自身の罪に気づくこともあるでしょう。聖なる主をお迎えするにはふさわしくない自分に気づいたなら、そこには十字架の赦しときよめが備えられています。そのこと永遠の戸とはイエス様の十字架であると気づき、感謝するのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

